

根こぶ病菌を
直接たたけ！

遊走子

休眠孢子

オラクルは、作物に感染する「遊走子」に直接作用。
だから、**土壌中の菌密度を低減***、病害を約50日間予防します。

根こぶ病・土壌病害用

殺菌剤

オラクル®

顆粒水和剤

後藤名誉教授も推奨！

遊走子を直接たたいてくれる殺菌剤は、根こぶ病の防除に、非常に有効だと思います。

東京農業大学 後藤 逸男 名誉教授（農学博士）

根こぶ病は難防除病害です。薬剤はあくまで総合的防除の一つで、単独では効果が不十分な場合があります。本剤は土壌の「酸性改良」や「輪作体系」、「排水の改善」などと組み合わせて使用してください。

*使用していない場合との比較において

※イラストはイメージです ©は日産化学（株）の登録商標

オラクル顆粒水和剤は、病原菌の遊走子に直接作用して、予防します。

オラクルは、従来の根こぶ病用殺菌剤とは違い休眠孢子を眠らせたままにしません。

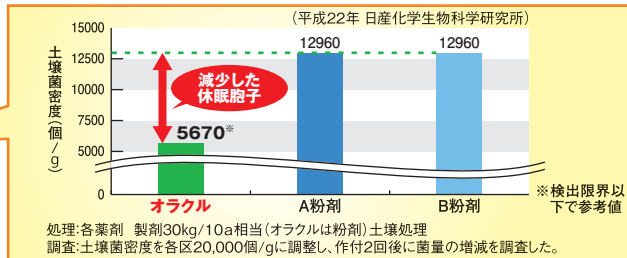
病害感染の元になる、遊走子に直接作用。その効果は、約50日間持続します。

だから、土壌中の菌密度を低減*。畑の土をきれいにします。

さらに、セル苗灌注で低コストかつ省力的に、病害を予防できます。

*使用していない場合との比較において

遊走子をたたくので、菌密度を低減します*。



菌密度の低い圃場では、省力的で低コストな灌注処理。

土壌中の菌密度が低い圃場では、「灌注処理」で十分な効果が期待できます。灌注処理は、希釈した薬液をジョウロ等でセルトレイまたはペーパーポットに処理する省力的な薬剤処理法。少ない薬量で最も重要な主根圏の感染を防ぐため、低コストで防除することができます。



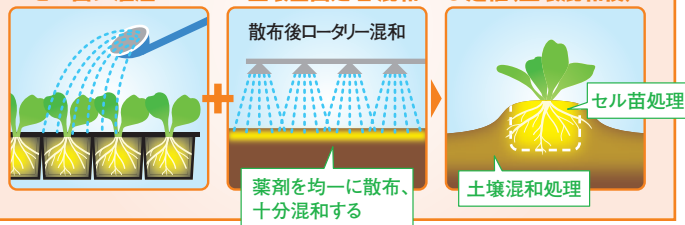
菌密度の高い圃場では、「体系処理」がおすすめ。

菌密度が高い圃場では、「セル苗灌注処理」と、本圃の顆粒水和剤(又は粉剤)による「土壌全面処理後混和」の体系処理をおすすめします。

(使用方法「全面散布後土壌混和」のある作物の根こぶ病防除の場合)

*液剤散布装置をお持ちの方は、顆粒水和剤だけの体系処理が可能になりました。

1 セル苗に灌注 2 土壌全面処理・混和 3 定植(土壌混和後)



顆粒水和剤の適用病害と使用方法

全面散布時は、適湿な土壌水分で処理してください(土を握ってすぐ崩れる程度)。

作物名	適用病害/使用目的	希釈倍数 又は使用薬量	使用液量 又は希釈水量	使用時期	総使用 回数※1	使用方法
ぶどう	べと病	5,000~10,000倍	200~700ℓ/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布
てんさい	黒根病	2,000倍	200~300ℓ/10a	収穫30日前まで	※2	株元散布
キャベツ		100~200倍	ペーパーポット 1冊当たり1ℓ (3ℓ/㎡)	移植前	※3	苗床土壌灌注
茎ブロッコリー		300g/10a	100ℓ/10a	定植前	※4	全面散布後土壌混和
ザーサイ		200~500倍		定植当日	※5	灌注
はくさい ブロッコリー カリフラワー	根こぶ病	500倍	セル成型育苗トレイ1箱 又はペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌 約3~4ℓ) 当たり500mℓ	定植前	※6	灌注
非結球 あぶらな科 葉菜類		200~500倍		は種前又は定植前	※7	全面散布後土壌混和
かぶ		300g/10a	100ℓ/10a		※8	灌注
みょうが(花穂)		200~300g/10a			※9	全面散布後土壌混和
みょうが(茎葉)	根茎腐敗病	2,000倍	3ℓ/㎡	生育期但し、収穫3日前まで	3回以内	土壌灌注
しょうが		1~3ℓ/㎡		みょうが(花穂)の収穫3日前 まで但し、花穂を収穫しない 場合にあっては開花期終了まで		
葉しょうが		3,000倍	3ℓ/㎡	生育期但し、収穫3日前まで		
いちご		2,000倍	1ℓ/㎡			
たばこ	疫病	2,000~3,000倍	50mℓ/株	育苗期	2回以内	株元灌注
ばれいしょ	粉状そうか病	2,000倍	100~200mℓ/株	収穫10日前まで	※8	土壌表面散布
こんにゃく	根腐病	250g/10a	200~400ℓ/10a	植付前	1回	全面散布後土壌混和
稲(箱育苗)	苗立枯病(ピシウム菌)、 ムレ苗防止	2,000~4,000倍	育苗箱1箱当たり希釈液500mℓ※9	は種時		土壌灌注
花き類・ 観葉植物※10	疫病	4,000倍	育苗箱1箱当たり希釈液1ℓ※9			
		2,000倍	ポット使用土壌 約1ℓ当たり100mℓ	鉢上げ時又は 鉢替え時又は生育期	3回以内	

※1 本剤およびアミスルプロムを含む農薬の総使用回数の制限を示す。

※2 株元散布は3回以内、苗床土壌灌注は1回、アミスルプロムを含む農薬の総使用回数は5回以内(種子への処理は1回以内、苗床灌注は1回以内、株元散布は3回以内)

※3 全面散布後土壌混和は2回以内、灌注は1回、アミスルプロムを含む農薬の総使用回数は8回以内(苗床での土壌混和は2回以内、灌注は1回以内、本圃での土壌混和は2回以内、散布は4回以内)

※4 本剤は1回、アミスルプロムを含む農薬の総使用回数は3回以内(土壌混和は2回以内、灌注は1回以内)

※5 全面散布後土壌混和は2回以内、灌注は1回、アミスルプロムを含む農薬の総使用回数は7回以内(土壌混和は2回以内、灌注は1回以内、散布は3回以内)

※6 全面散布後土壌混和は2回以内、灌注は1回、アミスルプロムを含む農薬の総使用回数は6回以内(土壌混和は2回以内、灌注は1回以内、散布は3回以内)

※7 本剤は2回以内、アミスルプロムを含む農薬の総使用回数は5回以内(土壌混和は2回以内、散布は3回以内)

※8 本剤は1回、アミスルプロムを含む農薬の総使用回数は5回以内(植付前は1回以内、植付後は4回以内)

※9 育苗箱は30×60×3cm、使用土壌約5ℓ

※10 (ポット、プランター等の容器栽培)

詳しい
製品情報は
こちら →



●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

本資料は2024年4月現在の登録内容に基づいています。



日産化学株式会社

東京都中央区日本橋二丁目5番1号 ホームページ <https://www.nissan-agro.net/>
お客様窓口 TEL.03-4463-8271 (9:00~17:30 土日祝日除く)

ORC-WHS19A